

8-4-13 砂防・急傾斜専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 砂防・急傾斜専門委員会の開催

専門委員会開催回数：10回

令和3年4月から翌年1月まで月1回のペースで専門委員会を開催し、本年度検討項目の審議及び技術部会等への報告・連絡等を行った。

(2) 活動の目的

近年、気候変動に伴う集中豪雨の増加や地震の頻発等により、土石流・がけ崩れ・地すべり等の土砂災害が全国的に多発している。令和3年8月11日からの前線に伴う大雨では、西日本（広島県・佐賀県等）を中心に多くの土砂災害が発生した。令和3年の土砂災害発生件数は、42都道府県において972件（令和4年3月18日現在）に上り、死者・行方不明者33名、人家被害291戸の被害が生じている。

当専門委員会では、これら災害調査等の支援を行うとともに、砂防技術の向上を図る観点から、頻発する土砂災害に対する取り組みや砂防業務の課題等を整理検討し、それらに基づき委員会活動を実施した。

(3) 令和3年度の活動

- a) 当専門委員会の活動状況パンフレット（令和2年度版）を作成した（A3版表裏1枚）。
会員及び国土交通省・都道府県砂防部局等に配布し、当専門委員会の活動の周知を図った。
- b) 国土交通省砂防部保全課、砂防計画課幹部との意見交換会を11月11日に実施し、砂防関係業務の現状と課題について意見交換を行った。
- c) 第15回砂防現地見学会は、新型コロナウイルス感染症対策が十分に確保できないことから中止とした。
- d) 令和2年度業務等に関するエラー事例の収集・分析資料を作成し、取りまとめを行った。
品質セミナーは、ビデオ配信で実施した。また、東京都のエラー講習会に講師を派遣した。
- e) 第12回砂防講習会は、コロナ感染症対策のためJCCA Web講習システムによる録画配信と

し、令和4年2月1日より配信開始している。
講師として、国土交通省砂防部保全課 伊藤仁志課長に「近年の砂防事業の課題と展望」、

（一財）砂防フロンティア整備推進機構 田村圭司研究第二部長に「砂防関係施設の長寿命化計画について」、筑波大学生命環境系 内田太郎准教授に「砂防における「観測」から得られた知見の例と課題」を講演いただいた。また、当専門委員会から「砂防・急傾斜専門委員会WGからの話題」として、「学生を対象とした砂防技術の広報活動」等のWG活動の紹介を行った。

- f) 砂防業務改善について、これまで作成してきた照査要領の効率的利用を目指し「Excel版照査要領」の試行運用を行った。また、「補強・改築設計基準」および「土石流対策調査・計画における歩掛の課題」について国土交通省砂防部と意見交換を行い、課題認識の共有を図った。
- g) 若手技術者交流会については、10月15日に立命館大学学生説明会を、10月22日に日本大学学生説明会をWeb方式で開催し、立命館大学では54名、日本大学では47名の学生参加があった。
- h) その他、今年度より「ブロック積砂防堰堤活用事例集」の取りまとめに着手した。

2. 次年度の活動について

令和4年度は、砂防部との意見交換会等を踏まえ業務の諸課題を再整理し、それらの解決策を提案する。

- ・ 第15回砂防現地見学会実施を検討
- ・ 品質セミナーにおいて、エラー事例の収集・分析、講師派遣を実施
- ・ 第13回砂防講習会を開催
- ・ 国土交通省砂防部との意見交換会を開催
- ・ 令和3年度版活動パンフレットを作成し、会員及び関係機関に配布
- ・ 若手技術者育成のための砂防若手技術者との交流会や学生説明会を実施

（砂防・急傾斜専門委員会委員長 後藤 宏二）